

屋久島の 魅力に迫る！

その13

— 屋久杉の番人：高田久夫さんに聴く —

2009年夏、前回ご紹介した高田久夫さんへのインタビューを試みた。その中で「山の現場と、世間で言われていること、聞いてきたこととは、ずいぶん違ったことが多いんですよ」と、高田さんは語る。

縄文杉のウソ！？

今「縄文杉」といえば、世界遺産屋久島の代名詞。観光で行かれた方は、樹齢7000年、とか7200年と記憶されていると思う。高田さんは「7200年？

・・・そんなバカな！他の「紀元杉」などの有名な老木がいずれも2000年～3000年といわれているのに、「縄文杉」だけがとびぬけているのはおかしい。それが事実だとすれば、なぜ中間の5500年、4000年が無いのか？不思議でしょ？ 私は2000年ちょっととみていて、最高でも3000年だと思います。それを言うと、役所の人は、「まあ、そう難しいことは言わずに夢を持たせましょう」と言うばかり。観光のためとはいえどうも納得がいかんのです。・・・



なぜ、「縄文杉」が注目されるのか？

「やっぱり、姿かたちが「絵」になるからでしょう。見た目のバランスがいい。立っている場所もいいんでしょうね。大きさでいえば、山の奥にはもっと大きいのがあります。でも、それをいうと観光客がどっと押し寄せてまた、〈縄文杉の二の舞＝環境問題〉になりますから、知らせないようにしています。」

＊ ＊ 「観光客が激増し、周りを歩くことで露出した根の損傷が激しいため、縄文杉の周りは柵で囲み近づけないようになっている。ちなみに、現在、観光客はほぼ毎日訪れ、多い時期は1日300人以上にもなっている」



縄文杉の木材としての特徴は？

「縄文杉の芯は腐っていて、大きく穴があいているはずですよ。どちらかと言うと肥満体の木で、一方に偏って太っています。表面が凸凹していますので、年輪は肉眼で数えられる程度に荒いと推測されます。屋久杉の場合、樹皮に凸凹が無くすっきりしたものの方が、成長が遅く年輪が細かく詰んでいるものなんです。」



NATURE DESIGN

岡崎製材株式会社

代表取締役 八田欣也